



堀船中だより

心身ともに健康にして、国際的視野に立って社会に貢献し、自立した人を育成する。

教育目標

自ら学び 自ら考え 自ら行動できる生徒

令和5年10月 第6号

校長 阿久津 光生

〒114-0002

東京都北区王子5-2-8

Tel 03-3911-8817

《祝 健康づくりフォーラムで堀船中が都内小中学校等に都庁からライブ配信で発表しました》

8月24日(木)に令和5年度健康づくりフォーラムが開催され、堀船中は東京都庁第2本庁舎からライブ配信で発表を行いました。このイベントは、学校、学校保健・給食関係団体等の講演や発表を通じて、児童生徒の健康づくりへの理解の促進と、学校・家庭・地域等が一体となった健康づくりの推進を目的に行われます。対象は、都内公立学校教職員、学校医、学校歯科医、学校薬剤師等、保護者、関係行政職員、都民です。発表校は、令和4年度東京都教育委員会表彰(健康づくり功労)受賞校である豊島区立長崎小学校、本校、練馬区立豊玉第二中学校と、令和4年度全国学校給食研究協議大会の発表校の狛江市立緑野小学校の計4校でした。堀船中は清水先生が中心となり、杉政先生とお二人で発表しました。堀船中の発表は、5年間の実績に基づいた非常に中身の濃い内容のものでしたが、それを大変分かりやすく、かつ持ち時間ぴったりにまとめたことで、関係者の方々からお褒めの言葉をいただきました。堀船中の健康づくりが都内小中学校・関係諸機関で活用・実践されていくことを願うとともに、今後も家庭・地域と連携した健康づくりの範を示せるよう、実践に努めてまいります。

《堀船地区納涼盆踊り大会で大江戸ダンス隊が見事な踊りを披露しました》



8月26日(土)、堀船地区納涼盆踊り大会で、大江戸ダンス隊が見事な踊りを披露しました。

『丘を越えて』『鉄道唱歌』の2曲を披露した後、舞台上の大江戸ダンス隊がリードする形で、会場内の全員で『ジャンボリー・ミッキー』を踊りました。場内の小さなお子さんたちから大人まで大盛り上がりで、とっても楽しい時間を共有できました。大江戸ダンス隊のみなさん、どうもありがとうございました。

《堀船中PTAのみなさんもフランクフルト出店で盆踊りを大いに盛り上げてくださいました》

8月26日(土)の堀船納涼盆踊りでは、大江戸ダンス隊ばかりでなく、堀船中PTAのみなさんが、堀船中に今後何らかの形で利益を還元する目的でフランクフルトのお店を出店してくださいました。堀船中には割引販売も行ってくださいました。堀船中PTA出店ブースにはフランクフルトを購入するお客さんの長蛇の列がとぎれることがなく、PTAのみなさんは休む間もないぐらいに大忙しでした。その結果、なんと堀船中PTA出店ブースは来客者256名(堀船中42名を含む)、販売数596本を数え、完売したとのこと。先月の「ありがとう堀船中」、先週の「夜会」から続くPTAのみなさんの労を惜しまぬご尽力に、頭が下がる思いです。本当にありがとうございました。



《金沢工業大学の学生8名のみなさんが、2年生の理科の実験授業をしてくださいました》



石川県の金沢工業大学バイオ・化学部 応用バイオ学科の相良先生と8名の大学生のみなさんが、9月8日(金)、2年生の理科の実験授業のため、わざわざ金沢から新幹線に乗って来てくださいました。今の2年生は、昨年度の1年生の時に、高岡市立福岡中学校のみなさんと、高峰譲吉と沢尻栄一というそれぞれの郷土の偉人を通して、とても有意義な交流を持つことができました。そして今年は、高峰譲吉の発見した消化酵素・タカジアスターゼ等を実際に研究している相良先生のご指導の下、日夜勉学に励んでいる大学生達が、堀船中にいらしていただけることになったのです。金沢工業大学のみなさんは、さまざま

な実験道具を大学の研究室から持ち込んで、とってもわかりやすく、丁寧に教えてくださいました。大学生のみなさんから多くの助言や支援を受けた生徒達は、実験を通して、分かる喜びや発見する喜びを体感していました。今後もいろいろな形で、金沢工業大学の皆様と交流を図っていきたいと思います。

最後になりましたが、高峰譲吉という偉人を通じて、石川県の大学生から学ぶ機会を与えてくださったNPO法人高峰譲吉博士研究会の長谷部様、三門様に改めて感謝申し上げます。また、長谷部様からは、マンガ『高峰

譲吉博士』を新入生分毎年寄贈していただいております、さらに先月には、新たに、高峰譲吉物語少年編『これから譲吉』を全校生徒分いただきました。本校の生徒のための並々ならぬご支援に、重ねて感謝申し上げます。

《〈昭和町祭礼ふれあい広場・栄町祭礼ふれあい広場〉会場設営ボランティア合計 38 名 みんな頑張りました》

9月16日(土)、昭和町と栄町で、それぞれ〈祭礼 ふれあい広場〉が開催されました。朝9時半までに昭和町ふれあい公園・栄町ふれあい公園に集合した38名もの生徒のみなさんが、会場設営ボランティアを行ってくれました。これは、生徒会役員が生徒会の自治活動として地域ボランティアの呼びかけをしてくれたことによります。それに応えて多くの生徒のみなさんが快く参加してくれたことを、大変ありがたく思います。

会場設営を無事終わると、午後には栄町ふれあい公園で堀船中の生徒による「大江戸ダンス」が披露されました。みんな笑顔で楽しくダンスをしてくれたおかげで、会場内がとっても華やかな雰囲気になりました。

大江戸ダンスの次は、堀船中3組のみなさんによるハンドベルの演奏と手話を取り入れた歌唱の発表です。3組のみなさんは夏休み明けから発表の日を楽しみに練習を重ねてきましたが、直前になって体調不良者が続いてしまっていました。

そこで、欠席の生徒のハンドベルのパートを有志の先生方が当日に練習して急遽代役を務め、歌は大江戸ダンス隊や見学に来ていた生徒が3組の応援として一緒に歌ってくれました。最後に会場内のみなさんと一緒に『believe』を歌うと、その懸命な姿に会場内から感動の拍手が沸き起こりました。堀船中の生徒達と先生方の、どんな状況にあっても共に助け合い頑張ろうとする姿に、大変感激いたしました。



《祝 野球部北区秋季大会 第3位おめでとうございます》



9月16日(土)、北区中学校秋季野球大会 準決勝が行われました。堀船中・東京成徳中チームは、1回戦、2回戦ともに、見事なサヨナラ勝ちを決めて準決勝に進出していました。準決勝の相手は赤羽岩淵中で、荒川大橋野球場で対戦しました。強豪校を相手に、初回に1点を先制するなど大いに健闘しましたが、残念ながら負けてしまいました。しかし、最終結果は北区第3位という素晴らしい成績をおさめました。本当におめでとうございます。

《祝 2023JAPAN CUP バトントワリング大会(全国大会)に2年生寺嶋さん・高橋(海)さんが出場し、ドリルダンス部門で見事に第1位に輝きました。おめでとうございます》

ジャパンカップ全国バトントワリング大会(全国中学校バトントワリング選手権大会)が、8月27日(日)に、東京都調布市の武蔵野の森総合スポーツプラザで行われました。2年生の寺嶋さん・高橋さんが出場し、ドリルダンス部門で見事に全国第1位に輝きました。本当におめでとうございます。2人の全国大会直前の練習を見せていただきましたが、圧巻の素晴らしい演技に感動しました。普段は人目につかないような日々の猛練習が、他の人には絶対真似ができない、スペシャルな2人の演技をつくっているのだと思いました。

《祝 3年生 小林(愛)さん 柔道の登竜門・マルちゃん杯全国大会に出場し大健闘しました》

3年生の小林(愛)さんが、9月18日(日)、東京武道館で、柔道の登竜門・マルちゃん杯全国大会に出場しました。この大会は、各都道府県の強豪チームや各地方ブロックを勝ち抜いた代表が一同に会する柔道会の登竜門とも言える栄えある大会です。小林さんは春日柔道クラブ(講道館)の主将として、大健闘しました。

《祝 3年生 茂木さんが、東京ドームで素晴らしいチアダンスを披露し、会場が歓喜に沸きました》

9月10日(日)、3年生の茂木さんが、GIANT VENUS DANCE SCHOOL 東京ドーム発表会に出場して、素晴らしいチアの演技を見せてくれました。この日は読売ジャイアンツ対中日ドラゴンズの試合があり、超満員の観客の中、オープニングでダンス2023スクールテーマソングのGirls²『Good Days』、7回表終わりには、『闘魂こめて』のチアダンスを披露すると、会場は大いに盛り上がりました。茂木さんは小学校の2年生からこのGIANT VENUS DANCE SCHOOLに所属しているそうで、堂々たる超一流のダンスに感激しました。

津田梅子の生き方（5）～ランマン家での生活～

ランマン家でチャールズとアデラインは、梅子をまるで我が子のように大切に育てました。ランマン宅から通うことのできる私立の小学校スティーブソン・セミナリーで学んだ梅子は、中等学校であるアーチャー・インスティテュートへと進学しました。梅子は、小学校も中等学校でも大変優秀な生徒でした。特に理科系の学科は群を抜いて優れており、全ての勉強の基礎となる英語力についても、もはやネイティブの水準まで達していました。

梅子が7歳の時に書いた「小さい女の子の物語」と題した冊子が津田梅子資料室に残っています。当時はまだ9ヶ月しか英語を学んでいないのに、日本からアメリカまで自身が経験した大旅行について、

アメリカ号(船)やサンフランシスコで宿泊したホテルの絵とともに、絵日記風に構成された冊子になっています。冒頭には、この物語は自ら作ったものであること、ランマン夫妻に見せたら驚いていたという旨の記述もあるそうです。



ランマン夫妻
【提供】津田塾大学津田梅子資料室



女学校時代の梅子
【提供】津田塾大学津田梅子資料室

学校が夏休みの時期になると、ランマン夫妻は、梅子を連れていろいろなところに旅行に行きました。アメリカ北東部の都市や町、さらにカナダにも行っています。梅子は、自然が豊かな山や海、湖、島などにも出かけることができました。1876年には、ランマン夫妻は、捨松や繁子も誘って、梅子にアメリカ独立100周年を記念したフィラデルフィアでの万国博覧会を見学させるなどの貴重な体験をさせてくれました。また、アデラインだけでなく、チャールズもまた梅子の教育・子育てに深く関わりました。梅子の学校での出来事を著名な詩人に手紙を書いて知らせたり、作文の課題を与えて書く訓練をさせたり、旅行中には絵の手ほどきをしたりもしました。梅子が可愛がっていた「ネッコ」という名前の猫がいなくなった際には、似通った猫をニューヨークから取り寄せた、というエピソードからも、ランマン夫妻の梅子への深い愛情が感じられます。

アメリカで梅子が体験した、子どもを中心として、夫婦が互いに尊重しあう愛情いっぱいの家族の形。温かなランマン家で過ごしたおよそ11年という時間が、梅子のその後の人生に大きな影響を与えることになりました。

また梅子は、1873年の7月に、ペンシルバニア州フィラデルフィアのオールドスウィーズ教会でキリスト教の洗礼を受けています。洗礼を執り行ったペリンチーフ牧師は、チャールズの友人であり、女子教育も含んだ日本の教育について森有礼に助言を与えていた人物でした。そんなペリンチーフ牧師が、宗派に属さない形式で梅子の洗礼を執り行ないました。この洗礼は、梅子が自ら望んで受けたものでした。日本でキリスト教禁止が解除されたのは同年の2月のことでしたが、梅子は洗礼を受ける前から、ランマン夫妻に連れられて毎週、教会の日曜学校に通っていました。自らキリスト教徒になることを望むような環境にあったのです。

梅子ら3人の留学生は、約束の10年が切れる少し前1881(明治14)年の春に「帰国するように」という日本政府からの指令を受けました。繁子は、同年6月にヴァッサー大学音楽科を卒業し、指示通り、同年秋に帰国しました。捨松と梅子とは卒業まであと1年ということで、留学期間延長を日本政府に願い出て、それが許可されました。こうして梅子は、アーチャー・インスティテュートを優秀な成績で無事に卒業することができました。

なお、当時女子留学生達にアメリカで支給されていたお金は年額千円でした。これは、日本においては高級官吏の年俸に相当するものでした。為替の問題はあれど、これは政府が女子留学生派遣をいかに重視していたのかを示すとともに、留学生が受け入れ先で丁重に受け入れられる後ろ盾にもなっていたのです。